



目指せ! 山陰海岸ジオパーク

シリーズ7

円山川(前編)

市では、京都府・兵庫県・鳥取県の民間団体や行政機関と連携し、竹野海岸、日和山、玄武洞公園などの山陰海岸国立公園や神鍋高原などを中心としたエリアを「山陰海岸ジオパーク」として、世界ジオパークへの認定を目指しています。このジオパークについて、市のジオパーク普及啓発専門員(北但層群化石研究会代表)の三木武行が、シリーズで紹介します。

《問合せ》観光課 ☎21-9016



▲御待橋から望む日和山

円山川は、朝来市生野町円山を源流に、但馬地域東部を北に流れる一級河川です。河口から約1キロメートル西の日和山御待橋の展望台に立つと、リアス式海岸の見事な景観や城崎マリンワールドが一望できます。さらに背後の絶壁に目をやると、砂岩の地層に流紋岩が昇り龍のように貫入した様子を見ることが出来ます。この砂岩層は、円山川河口一帯に分布して、ウニの化石が発見されており、約1、600万年前の地層であることが分かっています。



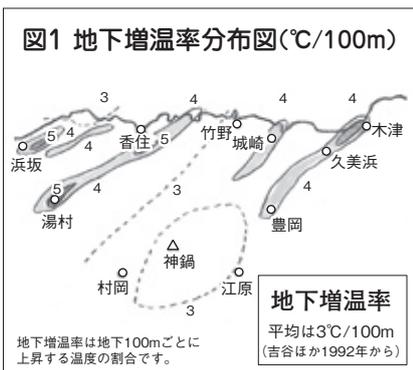
▲城崎温泉街の大谿川と玄武岩

また、貫入している流紋岩は、宇日流紋岩と呼ばれ、ここから竹野地域まで続く約300万年前の地層に含まれます。津居山港は、ズワイガニ・イカ・ハタハタなどの産地として県内でも有数の漁港です。山陰海岸で魚介類が豊富なのは、海脚(海中の尾根)と海溝が東西に並んで対馬の暖流と日本海底の寒流が交わり、陸地からは自然に恵まれた河川の栄養分が流れ込んでいるからだと言われています。河口から約4キロメートル上流に行くと、城崎温泉です。ここは約1、300年前の平安時代から利用され、コウノトリが傷を癒したという言い伝えがあり、明治以来多くの文人墨客に愛された温泉です。大正14年の北但大震災では大きな被害を受けました。その後の復興では防災を目指して整備され、昭和初期の3階



▲ハチゴロウの戸島湿地

建て木造建築と大谿川が温泉情緒を豊かにしています。源泉は、中新世の日本海ができる時の火山活動の名残りです。山陰海岸に多い温泉は、すべてこの時期の火山活動の名残りですが、近くに火山がないのに高温の温泉がある珍しい地域です(図1 地下増温率分布図参照)。城崎温泉から円山川を渡ると、戸島湿地と楽々浦があります。戸島湿地は、海抜0メートル地帯の水田が広がり、平成14年、野生のコウノトリが飛来し、エサ場としていた場所、今年4月、湿地保護と環境学習の拠点として「ハチゴロウの戸島湿地」がオープンしました。現在、ラムサール条約への



登録に向けて、準備が進んでいます。ラムサール条約とは、湿地生態系を保全し、絶滅のおそれのある「種や群集」を保護する国際的な条約です。楽々浦は、日本昔話で有名になった「鼻かけ地蔵」があり、絶滅危惧種の「ヒメマイトトンボ」が生息するラグーン(潟湖)です。冬季には、多くの渡り鳥が観察できる水鳥の越冬地となっています。このように円山川流域は、日本海と山々の地形・地質による厳しい気候の下、多様で豊かな自然に恵まれています。自然環境を暮らしに生かす知恵は、独特の風土を生み、山陰海岸ジオパークの中でもモデル地域として、世界にアピールしていきたいものです。

「日高地区まちづくり会議」が発足しました

市では、昨年3月に、おおむね20年後のまちの姿を展望し、向こう10年間の都市づくりを定めた「都市計画マスタープラン」の「全体構想」と、大きく4つの地域に分かれる「地域別構想」を策定しました。

これを受けて、今年度から、おおむね小学校区程度のとまりのある範囲を対象に、市民と行政が協働してまちづくりの指針となる「地区構想」の策定に向けて、順次、取り組みを進めていきます。

都市計画マスタープラン「地区構想」の策定に向けて、2カ月に1回、シリーズでお知らせします。  
《問合せ》都市整備課計画整備係 ☎23-17712

《地域別構想の地域区分図》



▲第1回日高地区まちづくり会議

市内で最初となる西部地域の中心地にあたる日高および、静修小学校区を対象にした「日高地区まちづくり会議」が4月に発足しました。

4月24日、第1回目の会議が、日高文化体育館で開催され、25人の委員に市から委嘱書を渡した。会長に吉田 勲さん（日高町浅倉）が選ばれました。

会議では、事務局からの地区構想策定の趣旨説明に続き、意見交換などが行われました。

今後は、このまちづくり会議を中心に、今年度の「地区構想」策定を目指して、月に1回程度、話し合いや活動を行い、地区のまちづくりに取り組んでいきます。

学校支援地域本部事業

学校はどんな支援を望んでいますか！



市内にある40の市立小中学校では、地域の皆さんからさまざまな支援を受け、地域全体で子どもと向き合い、育んでいただいています。

子どもたちは、地域の方と交流を持つことで、顔見知りが増え、気軽に声を掛け合うことができるようになったり、体験活動の充実で、地域の良さを再発見し、地域への関心が高まるなど、多くの効果が得られています。

学校支援ボランティアの方から支援をいただいている一例を紹介します。

●学校が求めている支援内容

- ・校地内の草刈り
- ・植木のせん定、枝打ち
- ・花壇の整備、花作り
- ・老朽化した校舎、校具の補修
- ・自然学校におけるスノーケルの指導補助
- ・プール掃除、校舎内外の清掃
- ・校庭芝生化に伴う、芝生の管理

ボランティアとして支援をお願いできる方は、左記まで連絡ください。

※ただし、すべての学校がすべての支援を必要としていないというわけではありません。また、ボランティアはすべて、無償となります。

《申込み・問合せ》学校支援地域本部事業実行委員会事務局（生涯学習課人権・社会教育係内） ☎23-0341

●現在支援を受けている例

読み聞かせ、図書館整備、登下校の見守り、稲・野菜栽培の指導、地域の伝統行事・伝統芸能・歴史の伝承、ふるさと学習・環境学習、スキー教室の指導、食育指導、職業指導、琴の指導など

このように、たくさんの支